

『梅雨入り前に水防機関が連携確認！』

木曽川上流河川事務所・水防連絡会を開催



- 国土交通省木曽川上流河川事務所は、出水期の水害防止や軽減に向けて関係機関との連携を図るため、本年度の水防連絡会を5月21日（水）、岐阜市忠節町の同事務所で開催。岐阜県や愛知県、岐阜市、大垣市ら木曽三川沿川の水防管理団体27機関約50名が参加し、河川の増水時に巡視が必要な「重要水防箇所」や、水防法改正点などについて確認を行いました。

同事務所の大澤健治所長は、「世界的に異常気象が発生しており、計画規模を超えた災害も珍しくない時代となっている。今年は5年ぶりにエルニーニョ現象が起こるとも予測されている。各機関と連携を深め、出水期を乗り切っていきたい」と挨拶。その後、参加者らは、災害時に対策本部となる同事務所内の流水管理センターを視察。担当者から、壁一面に設置された大型スクリーンに映し出された川の映像や、雨量・水位、ダム放流データを集中管理するシステムなどについて説明を受けました。



流水管理センターの施設を紹介する稲葉副所長

■出張所コメント

- 気象庁は12日、この夏に5年ぶりにエルニーニョ現象が発生し、秋にかけて続く可能性が高いとの見通しを、エルニーニョ監視速報で発表しました。夏にエルニーニョ現象が発生しますと、日本付近では太平洋高気圧の張り出しが弱くなり、梅雨明けが遅く、冷夏・多雨・日照不足になる傾向があるとのこと。今夏、「7月に入ってから豪雨」が特に心配されますので、当出張所としても万全を期して水防業務に当たりたいと思います。